

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第6部門第3区分  
 【発行日】令和5年5月31日(2023.5.31)

【国際公開番号】WO2022/064632  
 【出願番号】特願2022-551516(P2022-551516)

【国際特許分類】

G 0 6 T 7/20(2017.01)

G 0 6 V 40/20(2022.01)

【F I】

G 0 6 T 7/20 3 0 0 Z

G 0 6 V 40/20

10

【手続補正書】

【提出日】令和5年3月8日(2023.3.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【0036】

しかし、魚眼画像内では、起立した人物の身体が伸びる方向がばらつき得る。そこで、第1の推定部11は、魚眼画像を回転させながら画像の解析を行ってもよい。すなわち、第1の推定部11は、魚眼画像のイメージサークル内画像を回転させ、回転した後のイメージサークル内画像を解析して人物の身体の所定の複数点を検出する処理を行ってもよい。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0059

【補正方法】変更

【補正の内容】

30

【0059】

人物と重ならない基準線 $L_s$ を設定する手法は様々である。例えば、第1の推定部11は、上記処理で検出した各人物の身体の複数点から所定距離以内には基準線 $L_s$ を設定せず、上記検出した複数点から所定距離以上離れた場所に基準線 $L_s$ を設定してもよい。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0129

【補正方法】変更

【補正の内容】

40

【0129】

なお、学習段階においては、図22に示すように、画像処理装置10は、sigmoid関数を適用して「入力された120個の時系列な魚眼画像に複数のカテゴリ(人物行動)各々が含まれる確率」を0~1の値に変換する。そして、図示するTotal loss関数の値を最適化するように学習を行う。

50